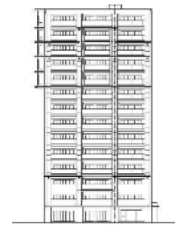


# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE さいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEE さいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)さいたま市北区大成町4丁目計画 新	階数	地上14F
建設地	埼玉県さいたま市北区大成町4丁目359番1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年8月 予定	評価の実施日	2021年9月22日
敷地面積	1,476 m <sup>2</sup>	作成者	(株)エフイー建築設計事務所
建築面積	337 m <sup>2</sup>	確認日	2021年9月22日
延床面積	3,260 m <sup>2</sup>	確認者	(株)エフイー建築設計事務所



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

環境品質 (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆ 80%☆☆☆ 100%☆☆ 100%超☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

#### Q 環境品質

Q のスコア = 2.9

項目	スコア
Q1 室内環境	3.3
Q2 サービス性能	2.8
Q3 室外環境 (敷地内)	2.5

#### LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

項目	スコア
LR1 エネルギー	3.1
LR2 資源・マテリアル	3.1
LR3 敷地外環境	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合	建物は、ページとダークグレーの濃淡を基調とし、ヨーロッパのモダンな街並みをモチーフとしました。道路沿いは、植栽帯で周囲との調和と壁面の圧迫感の減少に努めた。	0
Q1 室内環境	専有部分について、遮音性に配慮し、断熱性能等級4としている。また、F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用するなど、室内環境の向上に務めている。	Q3 室外環境 (敷地内) 標準的な配慮を行っている。
LR1 エネルギー	建物全体BEI=0.98としている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率85%とし、光害抑制に配慮した設計としている。
Q2 サービス性能	住宅性能評価における劣化対策等級3を取得するなど、建物のサービス性能の向上に務めている。	
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材を積極的に採用し、ノンフロン断熱材を使用するなど、資源・マテリアルについて配慮した設計としている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
 (仮称)さいたま市北区大成町4丁目計画 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.4</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		専有部分:T-2				<b>3.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		LL45				-	-	<b>4.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		LH50				-	-	<b>4.0</b>	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00	
1 室温						<b>3.0</b>	0.63	-	-	
2 外皮性能						<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.3</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.8</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光率		専有部分:2.0%以上(Bタイプ)				<b>1.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口						-	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光制御		レースカーテンと庇(バルコニー)で昼光制御				<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.5</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		専有部分:F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用				<b>3.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能						-	-	<b>3.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.5</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	<b>3.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した取組8項目				<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能評価における劣化対策等級3				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要2用途にB以上、Eは不使用				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>2.6</b>	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	<b>3.0</b>	0.60	
2 空間の形状・自由さ			-	-	<b>2.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.1</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.98	<b>3.2</b>	0.50	-	-	<b>3.2</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
1 水資源保護			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.2</b>	0.60	-	-	<b>3.2</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		共用廊下床:長尺塩ビシート、パーティクルボード、住宅床:木質フローリング	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ノンフロンの断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率85%	<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			<b>1.0</b>	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明を不使用	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	